

新宮山彦ぐるーぷ第1998回

笠捨山捲き道(旧通信道・鉄塔巡視路)と行仙宿補給路の補修整備

◇実施日：2018年11月03日(土) ～04日(日)

◇参加者：川島 功、乾 克己、奥本正幸、塩川真武、奥村順夫

(1泊2日)。3日帰り：兎嶋道夫、上村洋司・和美、

梶野照雄。4日帰り：沖崎吉信、濱野兼吉、生熊千

満子、上村洋司・和美、湯川一郎、山川治雄、岩本信

行、竹中卓治、高階美根子、栗原真行。

3日：9名、4日：16名。 延25名。

11月03日(土)

晴時々曇

登山口気温11℃

新宮組は、川島車(兎嶋同乗)・上村車の2台で新宮を7時前に
出発し、北山村経由で不動トンネルを抜け、浦向より国道425
号線を辿る。道路沿いの木々の紅葉が色づき始め、奥駈道稜線が
赤黄褐色になって来ている。

登山口に梶野車と一緒に到着。転回場所のベンチ椅子前に電源
開発(株)橋本流通事業所から寄贈の「くい丸」が置かれている。予
めお願いした長さ1.8mではなく1.5mの様だ。



行仙宿登山口に到着



寄贈「くい丸」



モノレール終点で荷作り

今年、北アルプスの七倉岳稜線の船窪小屋のスタッフとして体
育の日迄働いておられた塩川君が参加・到着。乾氏と山友達の2
名は、少し送れるとの事から、宿泊食料等を積込み川島・兎嶋・
梶野は、モノレールで他の方は歩いて行仙宿へ。上村洋氏は補給
路の登山口(第1ベンチ迄)を熊手による掻き掃除を終えてから、
笠捨山捲き道の整備作業に加わるとの事。
行仙宿に9時過ぎに到着すると、宿内に電源開発(株)橋本流通事
業所から「大峯奥駈道整備の定期寄贈品(飲料水3箱+缶パン2箱
+卓上コンロガス4セット)」が荷揚げして置かれていた。ご好意
に衷心より御礼と感謝を申し上げます。



色づく木々と行者堂

補修整備作業の準備

電源開発(株)の寄贈品

笠捨山捲き道(旧通信道・鉄塔巡視路)の補修整備作業の道具を
準備する間に、梶野氏に山彦Gのチェンソー刃を新品に取替えて
貰う。川島(チェンソー+トング)、梶野(チェンソー等)、兎嶋(ジ
ョレン+ロープ)、塩川(大ハンマー)、上村和美さんの5名は、行
仙宿を9時30分頃に出発。

笠捨山捲き道は、10kmに半分の点検整備を終えている事から補
修整備状況を確認しながら歩き、No24鉄塔のベンチで小休止。

No26鉄塔と槍・地藏岳の稜線が良く望まれ、紅葉が色づき始め
ている。又、作業に適した清々しい気温・気候である。



No24鉄塔ベンチで小休止



色づき始めた檜・地藏岳



ブナの大木切除

前回根返りした倒木の枝切除に時間を要した地点を過ぎて、大きなブナを切除して山側を廻り込んでいたが、梶野氏がチェーンソーで支障のない様にブナ大木を切除して下さる。残り半分の捲き道の補修整備に時間を要する地点も想定され川島は先行する。

前回引き返した岩盤露出の支谷地点は、以前青木氏が足場をセメントで固めた箇所であり、浮いた岩を落としてゆっくり足場を確認しながら横切る。梶野・児嶋さんは、ロープを張って下さる。しばらく歩くと木が根ごと滑り落ちた岩盤露出箇所は、岩盤上



岩盤露出の支谷横切る



木が崩落し岩盤露出



傾いた歩道橋

部の山裾を歩いて通る事が出来る。傾いた歩道橋は、以前から傾いていて、新たに支谷から流出した山裾の土石をトンガで除き足場を確保し通過可にした。上村洋氏が追いつき作業に加わる。



枯れ倒木の切除前と切除後



豪雨で掘れ込んだ支谷



杉植林帯を通る捲き道は、猪がミミズ等の餌を捜し道の凹凸が激しく、トンガ・ジョレンで均す。浮いた桟木は、木杭と桟木を塩川君が大ハンマーで叩いて、土留めになる様に補修する。この地点を過ぎた支谷は、豪雨により約2m掘れ込んでいたので



撒き道の桟木崩落



捲き道を通る



分岐手前の倒木そのまま

堆積土石をトンガで崩して伏流水で水が流れていない下流地点で谷を横切り、足場崩落上の元の捲き道へ登り返す。此処の通過は、栈木歩道設置が難しく、現時点ではこのルートが一番良いと思う。栈木崩落が在るが歩行に支障が無く、とりあえず葛川辻手前の奥駆道分岐迄急いで点検巡視。〇〇に山川さん達が台風21号通過後の点検巡視をしている事と台風24号の被害が無かった様で大きな手直しをせずに、奥駆道分岐に11時50分に到着し昼食。児嶋さんが暖めたソーセージとコーヒーを淹れて下さる。

分岐の直ぐ近くの奥駆道に根返り杉が在り、台風24号で倒木した様で梶野氏がチェーンソーで切除。

12時30分頃に昼食を終え笠捨山捲き道へ戻る準備をしていると、乾氏と初参加の奥本氏が「腹減った！」と分岐に到着合流。



奥駆道との分岐で昼食



奥駆道の根返り杉切除



捲き道作業者

乾・奥本氏は、昼食後に笠捨山頂を経て行仙宿へ。台風24号後の点検巡視がされて無いので倒木等の点検巡視をお願いする。我々6名は、笠捨山捲き道に戻り、斜面に崩落した栈木・木杭を引揚げ、腐った木杭はヒメシヤラを切り、木杭にして栈木を固定する。新品のチェーンソー刃に替えた山彦Gのチェーンソーを使うが切れない、刃の向きを替えたが切れないので使用済品だ。その後、不具合な箇所は補修と整備による成果を確認しながら戻る。



捲き道の栈木崩落箇所



木杭付き栈木を引揚げ大ハンマーで打ち直す



岩盤露出の支谷横切る



支障の倒木枝再切除



通行止め標識撤収

14時過ぎにSONA鉄塔ベンチで休憩するが、梶野氏が15分程経つが戻って来ない。大声で呼んでも返事がない、様子を見に戻ると、根返りした倒木を支えに為っていない枝を再切除して遅れたとベンチに戻り休憩。

児嶋・上村夫妻・塩川君は、先行して行仙宿に戻り、塩川君には宿泊の飲料水確保に行仙宿水場の状況再確認を兼ねて水汲みに行く様をお願いする。

梶野氏は、笠捨山捲き道分岐の「道崩・通行不可」の標識を撤去する作業の間に、川島が先行し15時05分に行仙宿に戻る。

これで笠捨山捲き道は、略以前の状態になり歩行可能となる。道具を資材倉庫に戻して玄関に戻ると、奥村氏が乾さんから宿泊者4名なので来る様に誘いの電話があり、干物を持って登って来たとの事。上村夫妻・児嶋氏が15時40分頃に下山、梶野氏は山彦Gのチェンソーの目立てをして試運転してから下山。乾・奥本氏が行仙宿に戻り、16時前に塩川君が水汲みから戻り「10秒に一滴程度」で貯留水を汲んで来たとの事。



奥村氏遅れて到着



下山前の日帰り者



笠捨山經由班戻る

夕食は芋煮鍋である。牛肉細切れ・里芋・人参・椎茸・糸コンニャク・豆腐。馴れない食担の川島が腹ごしらえにと、餅各2個を入れて煮込んだが、餅が煮えすぎてトロトロになり、慌てて餅を取り出す。日の暮れるのも早く16時半頃からビールで「ご苦労様！」と乾杯。きのこ会に入会の乾氏が、生駒山系で採ったナラ茸・ヒラ茸と自家の春菊・ネギが芋煮鍋に入る豪華な鍋となり、しめにうどんを入れた。

奥村氏は持参のさんま・ハマチ腹身の味醂干しを焼いて下さるが、袋を切った時に誤って左人差指を切り、バンドエイドでは血が止まらないとのこと。深く切った様で、救急箱に消毒液等が無く、乾さん塩で血止めをして包帯をきっちり巻いて、ようやく血が止まった様だ。

5人とも下戸なのでビール12缶で足りた。賑やかに談笑し2時半過ぎに就寝。

行動タイム

新宮6:55→8:25行仙宿登山口8:35→9:10行仙宿9:30→10:05
No.24鉄塔ベンチ10:20→11:00掘れ込んだ支谷→11:50葛川辻側
の奥駆道分岐(昼食)12:35→14:05No.24鉄塔ベンチ14:30→
15:05行仙宿。

11月04日(日) 晴時々曇 朝気温9℃

無風で朝靄が発ちこめ、紀伊半島南部は曇りか雨の予報で心配したが、雲があるが陽が差し込んでくる。

6時に起床し、カマドで食器洗い用の湯を沸かし、その湯で「サトウの御飯」を温める。芋煮の残りを暖めると共に新たに乾さん「人参・ナラ茸・ヒラ茸・ネギ」のすまし汁を調理して下さり、さんま味醂干し、温泉卵、チンゲン菜のお浸し、ほうじ茶で朝食。

7時半前に朝食を終え、管理棟からの土鍋の保管場所が判らない方もあり、土鍋を洗い管理棟に保管。又、電源開発棟からの寄贈品には、提供日を記載して管理棟に運んで頂き、管理棟に保管する。



芋煮鍋の夕食



4日朝食



行仙宿登山口にて

本日の補給路補修整備作業は、モノレール終点から下での作業である。8時半には本日の参加者が登山口に着くことから、朝食の後片付けを乾さん達にお願いして、8時前に塩川・川島は、チェンソー1台、大ハンマー2丁、トンガ・ジョレン各1、番線とシノを担いでモノレール終点へ。(児嶋氏修理のトンガ1在り)。終点の近くのつづら折れの箇所誰か居て、浦向道方面に移動している。朝早くからの下山者？ 栗原先生(伊賀市民病院勤務)だった、遠方からの参加ご苦労さん！

本日の参加者の中にモノレール運転者が居ないので、川島が登山口に8時半に降りると、参加者の中に沖崎氏が居られて作業指示をされ、モノレールに「くい丸」が積込まれている。

本日の参加者は、沖崎・上村夫妻・濱野・生熊千・帰省された彦根の湯川・山川・岩本・竹中・高階美・栗原氏の11名が参加された。沖崎氏は欠席だったが、昨日の同級会後であり、なんとか都合をつけて参加して下さったので本当に助かった。

沖崎氏以外にモノレール運転者が居なく、モノレール運転希望者を募ると、岩本氏が手を上げられ運転の実機説明をする。

「くい丸」50本と栈木約12本を積み込み沖崎氏が運転してモノレール終点へ運搬。無人でモノレールを降ろして貰う、

降りて来たモノレールに栈木約15本とザックを積み、岩本氏の実機運転し、後に川島が同乗しモノレール終点へ。

終点に着くと沖崎氏が作業指示をされ、栈木腐蝕取替え場所に栈木と「くい丸」を肩で担いで、第1ベンチ迄の補給路に運んで下さっている。

ザックを背負った宿泊の3人(乾・奥本・奥村)もモノレール終点に合流し作業に加わる。その際、手箕1個下ろして貰う。

浦向分岐地点に栈木3本と「くい丸」6本で土留めし、栈木と「くい丸」を番線でシノを使って締める作業は、乾氏に上村洋氏へ指導して貰う。

モノレールから下のガレ場の補給路に栈木2本追加し、ガレ場

の土石を手箕・1斗缶2個の手渡しで補給路に敷く。又、ガレ場の補修整備は、山川氏が主担当になって作業して下さる。



補給路改修の栈木運搬



ガレ場の補給路改修



モノレール運搬栈木手渡し

沖崎氏は、濱野氏と栈木丸太をモノレール駐車庫付近(10本)とモノレール終点に再び運んで貰う。

モノレール運搬3回目の栈木は、並んで手渡しで降ろしたのであつと云う間に作業が終了する。又、補給路の栈木取替え地点へ肩で担いで運ぶ作業は、12人程で運んだので、荷揚げした栈木約70本は略取替え地点に運搬し終え休憩とする。思わぬ大勢の参加で予定作業が早く終了し感謝！感謝！である。



改修後のガレ場補給路



モノレール終点で休憩



10時10分からの休憩の間に、初参加者と久し振りに参加等の奥本・栗原・湯川・塩川・岩本・山川氏の自己紹介を行った。略運搬作業を終えたので行仙宿へ登り昼食にする事にした。乾・奥本・奥村の3氏は、その後の作業量は少ないので。此処で別れて下山になりました。残り13名は、行仙宿に11時10分頃に到着し、薪の運搬、発電機を 작동させブロワーで落葉掃除、宿内を掃除機で掃除等を行い、11時45分から昼食。スープが、上村氏から皆に振舞って下さり好評であった。



腐蝕栈木との取替え作業は、後日実施することにして、本日の作業を終え、13時過ぎに登山口に降りた。

上村洋は、行仙宿から登山口迄の行仙宿補給路を熊手で掻き掃除して下さり。舗装道路を歩いている様になった。お疲れ様！

登山口では、女性陣によって行仙宿で沸かした湯をテルモスに入れて持帰り、登山口でコーヒーを淹れて下さり、13時30分流れ解散とした。

新宮組は、帰路の北山村「じゃばら祭り」に立寄り帰新した。

(記；川島、写真；梶野・川島)

休憩中に初参加者等紹介

12時半頃に行仙宿から下山し、上部の余分な栈木約10本を取替え地点に運搬移動させた。

行仙宿での昼食状況



行仙宿で昼食

登山口に戻りコーヒー

午後からの作業者